



新毎日

夕刊

11月6日(水)

2019年(令和元年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号

〒530-8251 電話(06)6345-1551

毎日新聞大阪本社

介護老人保健施設は
はまさき

はまさき1・2・3・4
ショートステイ26床

医療法人健正会 検索
電話06(6681)0361(代)

特養カサブランカ相談会開催中

「当たり前」に生活するため
に。重度身体障害者の木村
英子参院議員が初質問。当事
者が参加する審議の重み。
衆院ではきょう、予算委員
中審議。2閣僚の相次ぐ辞任
に、任命責任を繰り返した首
相。問われるのはその重み。
英語民間試験が見送られる

近事片々

2019.11.6

来年度大学入試。国数の記述
式は予定通りも、採点に不安
の声。公正さが問われる。
パリ協定離脱とRCEP不
参加。「自国ファースト」に
振り回される国際協調。
コンビニ店主の85%は週休
1日以下。客の半数も時短容
認。曲がり角の24時間営業。

きょうの紙面から		(〇〇)
名阪国道有料要望に賛否	8	
台風2度被災 すし店再開	9	
聴衆と奏でる色彩	7	芸術
小説	6	碁将棋
碁将棋	7	

毎日数独 SUDOKU

第3492回・初級

			1					8
3	2				9	1		
		4		3			7	
6			4			3		
	7						4	
		9			1			5
	3			9		7		
		2	8				6	4
1					7			

ルールと答えは7面 パズル制作/ニコリ

毎日新聞購読
お申し込みは 0120-468012

配達・販売 06-6346-8419
お問い合わせ (月～土10～18時、日祝休)

#スマホで棚田

大阪・千早赤阪村

大阪府千早赤阪村で約700年続くといわれる棚田の保全に、IoT(モノのインターネット)技術が役買っている。10月にあった稲の収穫作業で地元農家に代わって汗を流したのは、スマートフォンに送られる動画やデータで生育を見守ってきた村外の「棚田オーナー」たち。保全活動の関係者は「過疎・高齢化で継承が難しくなっている棚田文化を守る切り札」と最新技術の導入に注目する。

【隈元悠太】

大阪市中心部から車で約1時間。府内唯一の村、千早赤阪村の山あいに広がる「下赤阪の棚田」は鎌倉時代後期から続くといわれ、1999年に「日本の棚田百選」にも選ばれている。その一角の田んぼ(約80

平方メートル)で10月26日、刈り取った稲を天日に干す「はさがけ」の作業があり、大阪府から親子連れら4組約15人が参加した。同市北区の会社員、只津佳子さん(33)は「スマホアプリで毎朝、田んぼの状態を確認



過疎・高齢化 IoTで農家救え

深刻な担い手不足

棚田はコメ生産だけでなく、中山間地の生態系や景観の保全、治水などにも役立つ。しかし、過疎・高齢化に加え、平地の水田に比べて作業効率が悪く、担い手は減る一方だ。

今回「下赤阪の棚田」でIoTを導入した田んぼも、所有者の農家が数年前に体調を崩して耕作を続けられなくなり、アオゾラ農園に管理を委託した経緯があった。

農林水産省などによると、1993年の調査時点で既に国内の棚田の12%が耕作放棄地になっていたという。中崎さんは「現在の放棄率は少なく見積もっても3～4割」と推計する。

国は8月、棚田の荒廃を防ぐ「棚田地域振興法」を施行し、地域の保全活動の支援に乗り出した。しかし担い手不足は深刻で、中崎さんは「将来的に都市住民が棚田の所有者にならなければ、維持できなくなるのでは」と指摘する。【隈元悠太】

この仕組みを導入したのは、大阪府千早赤阪村の農業コンサルタント、中崎義巳さん(55)。大手電機メーカーで技術者として働いた経歴を農業に役立てようと、棚田を管理する農園会社「アオゾラ農園」(大阪府門真市)に持ちかけた。

同社ではこれまで、会費を払った人々が「棚田オーナー」となり、代かきや田植え、刈り取りなどをしていた。大半は大阪府など遠隔地に住んでおり、頻繁に田んぼを見に来れないことが課題だった。

そこで6月、カメラとセンサーを設置した。従来は夏場、田んぼの水が干上がらないよう定期的に巡回に来る必要があったが、水位センサーのおかげで手間を省くことができた。

近畿地方に相次いで台風が接近した際も、稲の被害がないか常時監視できた。10月12日の台風19号では、稲を乾燥させる台が強風で壊れたことを確認し、次の日すぐにアオゾラ農園の社員が修理に駆けつけた。

「お米を食べるのが楽しみ」と顔をほころばせた。一角を見下ろす高台にはビデオカメラが1台、さらに、張った水の深さや温度を計測するセンサーが田んぼ2枚に1枚の割合で設置されている。動画や計測データはスマホアプリと連動し、24時間どこからでも確認できる。

「カメラが不審な動きをとらえるとスマホに通知する仕組みもあり、将来はインシや鹿など野生鳥獣による被害軽減にも役立つ可能性がある」という。中崎さんは「親から子へ代々受け継がれてきた棚田文化を、私たちの世代で途切れさせないわけにはいかない。農作業には技術で代替できる余地はまだあり、IoTを利用した稲作をもっと広めたい」と意気込む。

活動を支援する大阪市のNPO「大阪府民環境会議」の木内功理理事長(66)も「スマホ越しにでも、自分で育てる田んぼを日々観察することで愛着が生まれる。それが棚田保全への一歩だ」と広がり期待を込める。

⑤下赤阪の棚田
⑥スマートフォンのアプリで田んぼの状態を確認する中崎義巳さん(左) ⑦いずれも大阪府千早赤阪村で10月26日、幾島健太郎撮影



天気予報: 18(時) 8(金) 9(土) 10(日) 11(月) 12(火)

21.0	20.30	18.20	18.20	12.40	13.30
21.0	19.30	17.20	18.20	18.40	12.30
22.0	19.30	18.20	17.20	18.40	19.30
21.0	19.30	17.20	18.20	19.40	18.30
20.0	18.30	18.20	17.20	17.40	18.30
20.0	19.30	18.20	18.20	19.40	20.30
21.10	18.40	17.20	17.20	18.40	21.30
21.10	20.20	19.20	18.40	19.20	20.30

6日9時 札幌 7(木) 8(金) 9(土) 10(日) 11(月) 12(火)

4.70	6.50	6.50	8.30	11.50	13.50
20.20	15.10	14.10	14.10	16.40	18.40
21.30	16.40	15.50	16.30	18.50	12.40
19.30	14.30	13.40	13.20	16.40	16.30
20.0	13.30	12.20	12.20	12.40	13.30
19.20	18.30	17.50	18.30	18.50	18.30
20.10	20.30	19.20	19.20	14.40	20.30
21.0	18.20	18.10	18.10	19.20	20.30

木のぬくもりを感じる小屋 レナユニット http://www.renait.jp/